喜びのタネまき新聞

読む人の幸せを心に願って作る

No. 675

鹿児島県

宮古崎

奄美群島国立公園に指定。リュウキュウチクの草原と東シナ海を一望できる景勝地です。

※イラストはイメージです

〈皆様に感謝〉

2011年6月、私が初めて書いたこのコーナーのタイトルは「千羽鶴」でした。

「はじめまして、ダスキンの山村です」から始まり、東日本大震災が発生した数日後に、上海の現地社員から千羽鶴が届いた話をつづりました。

あれから13年と1カ月。今回で170回目となります。書き始めた時には「長く続けられるだろうか?」と思っていましたが、手に取って読んでくださる皆様のお陰で今号まで継続することができました。

この新聞を読んでいただいている方の多くは、ダスキンの商品・サービスをご愛用くださっているお客様だと思います。その皆様に向けたメッセージとして、毎回「このような内容でいいのだろうか?」と思い悩みながら書いていました。もしかすると、私の業務のなかで一番頭を悩ませる時間だったかもしれません(笑)。仕事やプライベートで起こった身近な出来事や感じたことを、思うままの言葉でつづることしかできなかったので、読者の皆様には物足りなかったかもしれません。

お客様から「いつも読んでいます!」というお手紙を頂戴したり、加盟店を訪問した際にお客様係から「喜びのタネまき新聞、楽しみにしています」との言葉を聞いたりするたびに少しプレッシャーもありましたが、皆様に何かが伝わって、気付いていただけることがあればいいなと思い、続けてきました。

振り返ると、このコーナーを担当するようになってから、身の回りに起こる小さな出来事や何げない言葉、景色にも興味を持ち、意識するようになりました。意識すると、今まで見てきた同じ景色も見え方が変わり、自分自身の仕事や人生において大きなプラスになりました。このコーナーを書くなかで多くのことを学びましたが、一番は「意識することの大切さ」だったと思います。

今回で私が担当するのは最後になりますが、2009年の社長就任時から始めた日記は継続し、「今日一日に感謝し、日常に興味を持って意識すること」を今後も続けていきたいと思っています。

読者の皆様には感謝!感謝!感謝!です。これまで本当にありがとうございました。

株式会社ダスキン会長
山村輝治

小さな曲面に描かれる
緻密で、色鮮やかな世界

薩摩ボタン

さつま ボタン

文様、形、大きさも多様ながら
一つひとつが宝石のような美しさ

手仕事の"ふるさと"

鹿児島県垂水市

室田さんのアトリエ「薩摩志史」がある垂水市は大隅半島に位置し、桜島に隣接しています。薩摩ボタンに使われる白薩摩は、火山性の地質から生まれる白土を原材料としています。

一度は途絶えた、幻のボタン

名勝・桜島をはじめ豊かな自然を有し、鉄砲やキリスト教が伝来した地、そして明治維新において大きな役割を果たした地として知られる鹿児島県。幕末期の薩摩藩は当時国内で最も進んだ技術を持ち、そんな歴史のなかで生まれたのが「薩摩ボタン」です。

「薩摩ボタンは、白薩摩と呼ばれる薩摩焼の陶器でできています。江戸時代に藩の財政強化のために輸出用として作られたという説もあり、ジャポニズム文化の一つとして欧米の方々に人気だったそうです」と教えてくれたのは、薩摩ボタンの絵付け師・室田志保さん。

大きさはさまざまですが、小さなものは直径わずか0.8センチ。その小さなキャンバスのなかに精巧な文様が描かれている様は、思わずため息が出る美しさです。しかし、繊細な技法ゆえに時代とともに作り手が減り、一時は生産が途絶えていました。

絵付け師の室田志保さん。驚くほど速い筆さばきで、繊細な絵付けを進めていく

元々は薩摩焼の茶道具を作る窯元で絵付けをしていた室田さんが、薩摩ボタンに魅せられて復活させたのは2005年。「製法や道具などの資料も残っておらず、何もかもが手探りでしたね。生地を作ってくれる窯元さんを探すのもひと苦労でした」と当時を振り返ります。それでも薩摩ボタンを作りたいという一心で試行錯誤を重ね、展示会などの地道な活動を経て、薩摩ボタンは再び脚光を浴びるようになりました。

小さなボタンのなかに精緻な世界がひろがる

薩摩ボタンは、ボタン形にした白薩摩の生地に下書きを行い、極細のイタチ毛を使って金と油を混ぜたマット金で文様を描いていきます。ミリ単位で描かれる図柄は、季節の花から動物、ドクロやクリスマス柄まで多様。元々は花鳥風月などの伝統的な柄が多かったそうですが、顧客の要望に応じるうちに年々種類が増え、今では100種を超えるとか。

「オーダーメイドで作ることもあるので、絵柄に決まったルールはありません。でも、薩摩焼らしさを大事にしたいので、金が盛り上がる盛金（もりきん）や、点々で立体感を出す砂子（すなご）といった薩摩焼の技法はどこかに入れ込むようにしていますね」と室田さん。そして何度も窯入れと修正を繰り返し、最後に金を磨いて、完成。一つの小さなボタンには、驚くほどの手間ひまと情熱が注がれていました。

アンティークの薩摩ボタン。幕末のパリ万博にも出品された

アトリエのある垂水市内から望む雄大な桜島

薩摩ボタンを脈々と受け継いでいく

薩摩ボタンは今でも海外からの人気が高く、近年は室田さんがアメリカの品評会に出品したことで、改めて世界中から再評価されるようになったといいます。

「元々、輸出用に作られていたものですので、国内で知っている方のほうが少ないんです。だからもっと薩摩ボタンを知ってもらいたい」と、室田さんはボタンだけでなく、日常で使いやすいカフスやアクセサリーなども展開し、アトリエでは一年に一度、薩摩ボタンの絵付け体験会も開いています。

「自分が師匠に絵付けの技術を教わったように、薩摩ボタンも次の世代へと残さないといけないと思っています」と室田さんは語ります。小さなボタンのなかに広がる、緻密で色鮮やかな世界。薩摩ボタンは、今日も世界中の人々を魅了しています。

飛田和緒さんの

台所の相談室

独特な風味が特徴のセロリは、好き嫌いが分かれる野菜でもあります。今回は、苦手な方でも試しやすくお酒にも合う一品をご紹介いただきます。

FILE 58

濃い味の食材と合わせて、セロリは脇役として生かします。

セロリは香りの強い野菜なので、まずはその香りを克服できるといいですね。茎よりも葉の方が味も香りも強いので、最初は葉を入れずに作りましょう。

茎は筋を丁寧に取り、薄切りにすれば独特な風味が和らぎ、歯触りも良くなります。さらに塩もみして出てきた水気をさっと洗い流せば、よりすっきりとした味わいに。それでも食べにくい時は、さっと湯がいて水で冷やせば香りは飛びますが、セロリの味に慣れてきたら、やはり生で食べるのがおすすめです。

レシピは、私がお酒の味を覚えたての若かりしころに作っていたおつまみです。この一皿で「セロリが好きになった」と言ってくれた友人を思い出し、提案しました。

しっかりと味の濃い物と合わせればセロリの味が気にならなくなるのではと考え、スーパーなどで売っている「いかのくんせい」をセレクト。さらにレモン汁とマヨネーズで和えることでセロリのクセが一層和らぎ、脇役として味にアクセントを付けてくれます。

さきいかや、あたりめでも代用可。あたりめは少し硬いので、細かく割いて時間を掛けてセロリとなじませてくださいね。

飛田 和緒（ひだかずを）さん

料理家。1964年、東京都生まれ。独自のアイデアレシピが人気。本連載をまとめた『台所の相談室』（KADOKAWA）が絶賛発売中。

今回のお悩み

大人になってもセロリが苦手で何とか克服したいです。料理が得意ではないので、簡単に作ることができてセロリが好きになれるようなレシピはありませんか？

（愛媛県・女性）

Answer Recipe

いかとセロリのマヨ和え

［材料（2〜3人分）］

セロリ（茎のみ）	1本	レモン汁	小さじ1/2〜1
塩	適量	あらびき黒こしょう	適宜
いかのくんせい	40g	七味唐辛子	適宜
マヨネーズ	大さじ1	粉山椒	適宜

［作り方］

1. セロリは筋を丁寧に取り、斜め薄切りにする。セロリの量さの1%の塩をまぶして軽く混ぜ、15分ほどおいてしんなりとしたらさっと水洗いをして、軽く絞る。
2. ①にいかのくんせい、マヨネーズ、レモン汁を合わせて和え、10分くらいおいて味をなじませる。味をみて塩少々で調え、好みであらびき黒こしょうや七味唐辛子、粉山椒をふる。

※セロリが好きな方は①の塩もみセロリは洗わずに、水気が出たままの状態で絞ることなく②にお進みください

飛田さんのひとてま

セロリの筋は、一本一本丁寧に取ってください。茎は斜め薄切りにすると繊維が断ち切られ、優しい口当たりになります。

市販のいかのくんせいやさきいかで作れるので、準備もお手軽です。マヨネーズといかの分量を増やせば、セロリは薬味のようになり食べやすくなりますので、苦手な方はお好みの分量からお試しください。

台所のお悩み事をお寄せください。

お料理について気になることや、ちょっとしたお悩みを、飛田さんに相談してみませんか？
お便りをお待ちしています。
宛先は裏表紙をご覧ください。

ほほえみのひろば

雨の日の過ごし方

滋賀県野洲市　布施登喜子さん

夏野菜の植え替えも済んだある日、恵みの雨が降ってきました。

こんな日は、キーボードの練習にもってこいです。数年前に習い始めて、80歳でどうにか弾けるようになりました。練習は楽しく、頭のトレーニングにもなると思って前向きに取り組んでいます。

先日は健康診断を受け、結果は異常なし。歯も20本しっかり丈夫で、なんとか健康に暮らしています。これからも感謝の気持ちを忘れず、今日一日を大切に過ごしていきたいと思います。

雨の日もはつらつと過ごされる姿勢を見習いたいです！

遠い日の記憶

三重県度会郡　上村崇子さん

ずいぶん昔、私が小学一年生になって間もない日のことです。

下校時に雨が降り出したのですが、私は傘を持ってきていませんでした。

すると校門に、番傘とおんぶ紐（当時は男性の浴衣帯）を持った母の姿がありました。一年生になったばかりの私が、雨に濡れて帰るのは可哀想だと迎えに来てくれたのです。

今でも、雨の日になると番傘の油の匂いと、母の温かい背中を思い出します。

雨の日が好きになる優しい思い出ですね。

猫のお見舞い

熊本県天草市　藤本寿さん

愛猫のニャン治郎は、元々我が家に入り込んできた猫。当時はやせ細っていましたが、皆に可愛がられ元気になりました。

ある時、私が体調を崩して療養していると、どこからかニャン治郎の鳴き声が。視線を移すと、窓ごしにこちらの様子をうかがっていました。数日後、体調が戻り、餌をあげようとしたところ、私の足にまとわりついて離れません。いつもはお皿にまっしぐらなのに、どうやら私のことを心配してくれていたようです。

私はニャン治郎がとても愛しくなり、額に顔を近付け、お礼を言いました。

相思相愛の様子が伝わってきます！

お散歩の行列

北海道札幌市　荻野義彦さん

先日、保育士さんたちに見守られながらお散歩をする幼児の行列に出会いました。

2～3歳の子どもたちは4人乗りカートにお行儀よく向かい合って座り、その後ろには4～5歳の子どもたちが保育士さんの持つお散歩ロープにつかまってテクテクと歩いていきます。

その姿が何とも可愛らしく、行き交う人々も皆にこやかに眺めていました。

地域の皆さんに温かく見守られながらスクスク育ちますように！

花とアマガエル

島根県鹿足郡　沖田喜代子さん

朝から婦人会の皆さんと一緒に、公民館のお庭の草取りをしました。皆で肩を並べて一生懸命取り組んだので、比較的早く終了。

帰り際、ふとアマリリスが目に留まり、そっとのぞくとアマガエルが花びらのなかで心地よさそうに眠っていました。私が顔を近付けると目を覚まし、つぶらな瞳で見つめ返してくれました。

とても可愛いらしい光景に、幸せを感じたひと時でした。

お花のベッドだなんて、まるでおとぎ話のワンシーンのよう！

アジサイの贈り物

茨城県那珂市　高橋八重子さん

82歳を迎えた誕生日に、友人から「いつまでも元気でいてね」と大輪のピンクのアジサイの花束をいただきました。

とてもうれしく、これでまた健康な一年を過ごせそうだと思いました。

まだまだ足腰もしっかりとしているので散歩をしたり、着物を着てお出掛けしたり、バッグを手作りしたりするなど趣味を楽しみたいと思います。

友人の温かい心遣いに感謝しています。

おめでとうございます！素敵なバースデープレゼントですね。

【燈々無尽】

くよくよしないで

あなたの苦しみを紙に書きなさい。
あるいは、あなたのなやみを
だれかに話す事です。
じーっと、ひとり胸の中に
入れたままにしないで
それをはき出すことです。
くよくよしないでぶちまける事です。
春の花が必ず咲くように
あなたの胸のうちも
きっと明るくなるでしょう。

ダスキン創業者　鈴木清一

愛の輪通信

ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業
第34期ジュニアリーダー育成グループ研修生
ＮＰＯ法人えひめ障害者ヘルパーセンター　社会福祉士
山内（旧姓：藤原）なるみさん（視覚障がい）

イギリスでの経験や学びが将来への道標になりました

研修先のイギリスで一番印象的だったのは、障がいによる制限がほとんどなかったことです。日本では「見えない」ことが理由で就職先の選択肢が限られたり、アミューズメント施設で利用できないアトラクションがあったりと、日常のなかでさまざまな制限があります。

研修を重ねるにつれ、障がいの有無にかかわらず自分のことは自分で決められる社会、全ての人が暮らしやすい社会を作りたいと思うようになりました。そして、自分と同じように困っている人を助けたいと思うようになったのです。

愛の輪は、日本とアジア太平洋の地域社会のリーダーを目指す障がいのある若者に、海外での研修活動を行っています。

このコーナーについてはダスキン愛の輪基金まで。
☎06-6821-5270

みてもらお！

読者の皆様からお送りいただいた
素敵な1枚をご紹介します。

ジューンベリーを収穫
大阪府高石市　浜口 静子さん

門柱に登れたよ！
千葉県市原市　石田 啓子さん

魔法使いになった気分
香川県観音寺市　森 靖子さん

満開のハナビシソウ
栃木県足利市　菊池 達也さん

ダス犬と いっしょに始めよう！ SDGs（エスディージーズ）かるた

ぬ ぬかりなく健診受けて健康第一

ぬ

解説
健康診断や検査を定期的に受けるなど、日頃から健康に気をつかって健康寿命を延ばしましょう！

こちらもご覧ください！
https://www.duskin.co.jp/yorotane-hiroba/

あなたのお便りや写真をお寄せください

うれしかったことや、誰かに聞いてもらいたいことなど、身近な話題をお寄せください。心よりお待ちしています。

◎送り先
〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33
株式会社ダスキン広報部
「喜びのタネまき新聞」編集室
e-mail：koho4@mail.duskin.co.jp

◎お名前、ご年齢、ご職業、ご住所、お電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。
- ご紹介させていただいた原稿や写真には、ささやかなお礼品をお送り致します。
- 作品は、必ずご紹介できるとは限りません。また、ご返却は致しかねますのでご了承ください。
- 本号は、2024年4月に制作したものです。状況によって記載内容が変更となる場合がございます。

バックナンバーはこちらから！
No.419からのバックナンバーが下記のアドレスからご覧になれます。
https://www.duskin.co.jp/tanemaki/

ダスキンモップのお支払いは
カンタン便利なクレジットカードで！
※一部対応していないお店がございます。

株式会社 ダスキン
発行・編集：広報部　〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】
お客様の個人情報はご投稿の掲載や、今後の紙面制作に利用させていただきます。なお、お預かりした個人情報はダスキングループと加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。
個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記の株式会社ダスキン コンタクトセンターまでご連絡ください。

0120-100100　www.duskin.co.jp
63-4C　2024.6　2952400